

3. からだの準備を進めるための手立て

◎首や体幹などがしっかりすることが、哺乳や経口摂取に有効です。療育や訓練（リハビリテーション）に通っている方は、自宅で可能な発達のうちがし方や、姿勢を安定させるためにできる椅子などの選び方・工夫について、担当のリハスタッフなどに聞いてみましょう。



4. 注意すること

これまで述べてきたことはあくまで原則です。それぞれのお子さまについては看護師さん、リハスタッフ、主治医とよく相談しながら進めてください。



イラスト：Noriko Yamagami
4

東京療育ネットワーク

摂食指導ワーキンググループ参加施設

- 島田療育センター
- 島田療育センターはちおうじ
- 東京小児療育病院
- 西多摩療育支援センター
- 東京都立小児総合医療センター
- 東京都立多摩療育園
- 東京都立東大和療育センター
- 東京都立府中療育センター
- 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

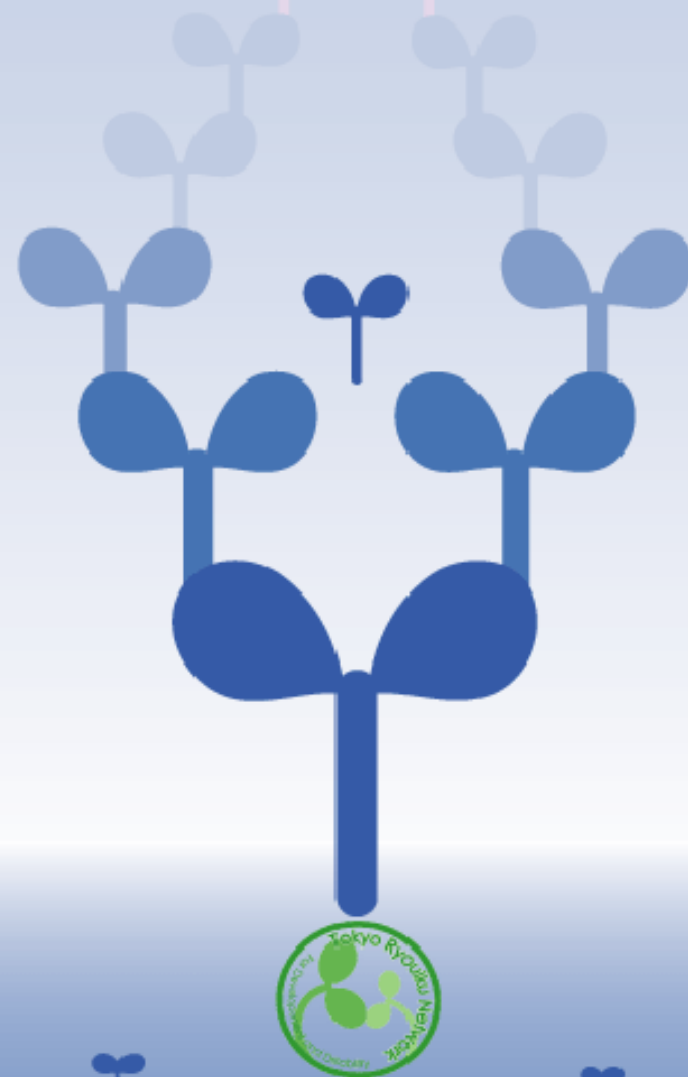


東京療育ネットワーク事務局

URL: <http://tokyo-ryouiku-network.jp/>

2016年8月1日 第1版発行

お口から食べ始める前に —ご家庭でできる摂食訓練(4)—



東京療育ネットワーク

経口摂取の開始に必要なこと

(経管栄養をしている子にもできること)

経管栄養をしていても、将来的に食べるようになれるお子さまはたくさんいます。でも、お口からミルクや食べ物を取っていない期間が長くなった場合、急にお口から食べたり飲んだり(経口摂取)することは難しく、準備が必要です。経口摂取を始めるのに必要な条件と、お口やからだの準備を進めるための手立てを以下に示します。

1. 経口摂取を始められる条件

①すべての経口摂取に共通すること

◆呼吸や心臓、消化器(胃や腸)を含めた全身の体調が落ち着いていること。(人工呼吸器や酸素がついていたり、吸引や嘔吐の回数が多いと始められないことがあります)

◆起きている(目が覚めている)時間があること。

◆感覚過敏が強くないこと。(お口を触られたときにひどく嫌がって、のけぞったり泣いたりしない)

◆自分の唾液が飲めていること。

(ひんぱんにむせこんだり、お口から多量にだらだらよだれが出ていない)

②ミルクの哺乳を開始するために必要なこと

◆哺乳反射(お口の周りを触ると、そちらにお口や顔を向けたり、乳首をちゅぱちゅぱ吸う反射)を認めること。



③離乳食を開始するために必要なこと

◆首が座っていること。

◆哺乳反射がなくなっていること。(哺乳反射が残っていると、スプーンをお口に入れようとしても、舌で押し出したりちゅぱちゅぱ吸ってしまったりうまくいきません)



2. お口の準備を進めるための手立て

①感覚過敏がある場合

⇒まずは感覚過敏の除去(脱感作)を進めましょう:リーフレット1をご覧ください

②感覚過敏が減ってきた、あるいはもともと認めない場合

⇒お口の中をたくさん触ってあげましょう。お口の中の刺激が、哺乳や経口摂取をうながすことにつながります。おとなの指や湿らせたガーゼでくちびるや舌を刺激しましょう。(バンゲード法:リーフレット3を参考にしてください)

また、お子さまの指をやさしく本人のお口まで持って行き、交互に指しゃぶりをしてもらうのも良いでしょう。離乳食をうながす時期にはスプーンやおもちゃなどもなめてもらいましょう。無理にお口に入れようとせず、やさしく促す程度にするのがコツです。

